

■AGU Fall Meeting 2011 でポスター発表 ～世界最大級の学会～

資源循環工学研究領域 水資源工学担当 特別研究員 工藤亮治

1. AGU とは

アメリカ地球物理学連合（American Geophysical Union：以下 AGU）は、地球物理学分野において世界中の研究者や学生が所属している世界最大級の学会で、気象学・海洋学、固体地球物理学、水文学、宇宙科学の 4 分野の研究を柱にしています。

AGU では、毎年 12 月に、カリフォルニア州サンフランシスコにおいて AGU Fall Meeting を開催し、世界中から約 2 万人の研究者が参加しています。Fall Meeting はその名のとおり、秋（Fall）に開催される Meeting ですが、以前は春に Spring Meeting も開催されており、両者を区別するために Fall Meeting と命名されたようです。

2. AGU Fall Meeting2011 への参加

2011 年の Fall Meeting は、12 月 5 日～9 日に、サンフランシスコのモスコーンコンベンションセンターで開催されました。主催者の発表によると、参加人数は約 18,000 人でした。モスコーンコンベンションセンターは、毎年 Macworld という Apple 新製品の発表や展示が行われることでも知られており、故スティーブ・ジョブズもここで iPhone を発表しました。

この Fall Meeting に、農工研の水文分野からは 3 名の研究者が参加しました。吉田研究員はラオスにおける氾濫過程のモデル化について、皆川研究員は豪雨の模擬発生手法について、私はラオスのダムにおける気候変動と新規ダム建設の影響について、それぞれポスター発表を行いました。

多くの人に発表を見てもらうには、もちろん研究内容が重要です。ただし、それ以外にもちょっとしたテクニックと運が必要だと思います。ちょっとしたテクニックとは、発表タイトルに手法や地名などの具体的な名称を入れることです。ポスターの発表件数は非常に多いので、来場者は数々の発表タイトルの中から興味のあるキーワードを探します。これは日本での発表でも同様ですが、特に我々のような非英語ネイティブの研究者が海外で発表する場合、タイトルの微妙なニュアンスで英語圏の人に興味を持ってもらうのは難し



▲AGU Fall Meeting の会場であるモスコーンコンベンションセンター（上）とポスター会場（下）

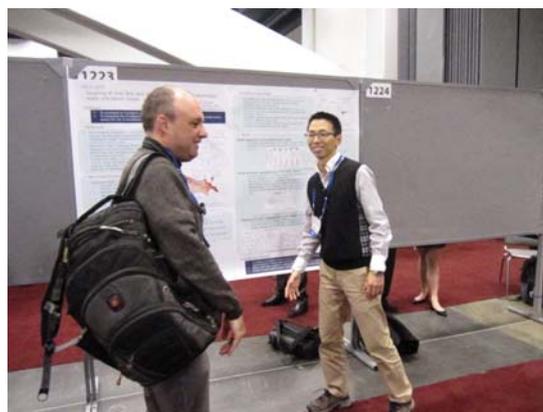
いため、手法や地名など具体的な名称が効果的だと感じました。私はタイトルを「Projection of climate change impact on water resources for hydropower and irrigation under new dam construction in the **Mekong River**」としました。そのため、メコン河の生態系を調査している研究者たちも関心を示してくれました。

次に運とは、主催者から与えられる「発表場所」のことです。ポスター会場はかなり広いので、来場者はメインストリートを通って目的のセッションに移動します。したがって、このメインストリートに近いところで発表するポスターが自然に目立ちます。今回の私の発表は、**Fall Meeting** で行った 3 度目のポスター発表でした。前々回、前回（2008 年、2010 年）は、メインストリートから遠く離れた隅っこでの発表だったため、人目に触れる機会が少なく寂しい思いをしました。今回は、メインストリートのすぐ横に発表場所が与えられたので、いろいろな分野の研究者たちが気さくに声をかけてくれました。

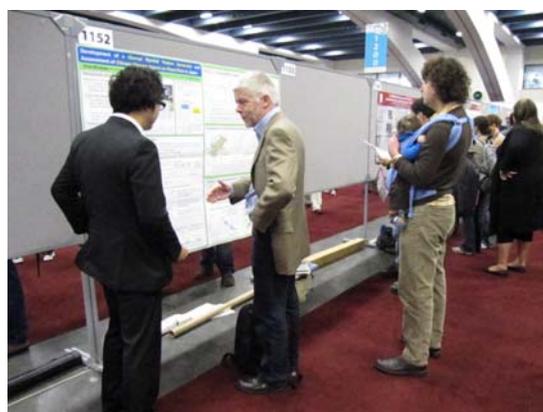
3. 子連れ研究者にみるアメリカ子育て文化

皆川研究員が発表している写真を見てお気づきになったでしょうか？ ポスターを見ている方が赤ちゃんを抱っこしています。気になって観察していると、この方はスヤスヤ眠る赤ちゃんを抱いて、あちらこちらで熱心にポスターを見ていました。その他にも、ベビーカーを押したお母さん研究者や、発表ブースの横のテーブルでお父さんかお母さんの帰りを絵かきしながら待っている少女などを見かけました。

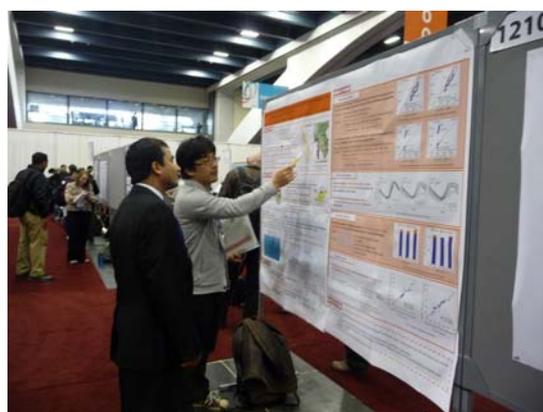
日本の学会でも、保育所の紹介等をしているところはありますが、子連れで学会に参加している光景を見るのははじめてでした。こうしたところにも文化の違いを感じながら、いつか自分も子供を連れて AGU に来てみたいと、ちょっとだけ思いました。



▲吉田研究員の発表の様子



▲皆川研究員の発表の様子



▲筆者の発表の様子